

令和6年度 園評価書

園番号 29 園名 用宗こども園

I 経営の重点に関わること 評価段階 (A:よくできている B:概ねできている、C:あまりできていない、D:できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員会から	改善策(来年度の具体的な取組目標等)
心も体も元気な子	「じぶんもすてき みんなもすてき」～だいすきがいっぱい～	○自分の好きな遊びを見つけてじっくりと楽しむ	年度当初は自分の遊びが見つけられない子やすぐに飽きてしまう子もいたが、保育者が一人一人の発達や興味にあった環境構成を用意したことで、安心して遊びを楽しんでいる。戸外では可動できる遊具や道具をより多く用意したり、豊かな自然環境を保育に取り入れられたりしたことで、子どもたちが自由に遊びを展開し、変化させながら遊びの拠点を増やして楽しむようになった。また室内では廃材コーナーを設置したことで、子ども自ら遊びイメージしたものを形にして楽しむ姿が見られるようになった。	A	A	・先生方が子どもの思いを大切に寄り添ったり、環境を整えたりしていることを感じた。 ・「お友達と遊びを工夫することが楽しいよ」と保育者がよく声掛けをしてくれた。子どももだんだん遊びが楽しくなっていく様子が見られたり、保護者にも話をしてくれたので、評価できる。	・子どもたちと一緒に遊びを楽しむ中で、一人ひとりの発達や個人差をしっかりと感じながら、子どもの内面を探り捉えていく ・遊びに必要な可動遊具や素材との出会いを大切に、子どもたちの「やってみよう」という環境作りをしていく ・保育者が自ら願いや思いをもち、先回りをして答えを出すのではなく、子どもの思いを引き出していく ・否定的な言葉に対しては日常的に受容・肯定的な言葉かけや関わりを意識していく
		○いろいろなことに興味・関心を持ち、「なんだろ？」「どうしてかな？」と考え、試したり工夫したりする	子どもたちが遊びや経験を重ねていく中で、「なぜ？」と疑問を持ったことに対して、保育者が一緒に考えたり、寄り添ったりしながら、その疑問やひらめきが、深い学びへとつながっていくように関わり、発達や興味関心に合わせた環境を再構成していった。子どもたちからは次第に「いいこと思いついた!」と自分なりのひらめきがたくさん生まれ、試行錯誤する姿が見られている。子どもたちが自ら考え遊ぶことができるように、子どもからの発信を待つことも引き続き大切にしていきたい。	B	A	・各教室・手作りがッズで子どもたちの興味を誘い、楽しく遊び、そこから学びも見込んでいるように、理想的な園運営ができていてうれしく思う	
		○自分の好きな遊びを楽しむ中でおもしろさを見つけ、保育者や友達に伝えようとする	遊びの中で発見した喜びや気づきを自分なりの表現で、保育者や友達に伝えようとする姿が見られる。自分の思いが伝えられない子に対しては、保育者が一人一人の思いを読み取り、言葉にして寄り添っていくことで、安心して保育者に思いを伝えられるようになってきた。また、友達の思いを否定的に受け止め、聞くことが難しい子もいるので、子どもの思いに対して、まず保育者が「それいいね」と認めながら肯定的な関わりを意識していく。	A	A		

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員会から	改善策(来年度の具体的な取組目標等)
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	○健康に配慮しつつも異年齢でかかわる楽しさが味わえるように、環境を整えたり、場を作ったりする	行事や遊びを通し、日頃から各クラスを行き来しながら自然と交流する姿が見られた。後半からは幼児と乳児が積極的に行き来できるよう計画し、散歩に出掛けたり、入室や着替の手伝いをするなどの関わり合う機会を持ち、その中で年上児の模倣をしたり、小さい子のお世話をしあげたい気持ちも高まった。発表会等の行事の見せあいを通し、ほめ認められることで幼児組の自信にもつながった。	A	A	・異年齢交流が自然にできている様子が見られました ・保護者との共有の部分で、以前よりもよくなったことが伝わりました ・自分の孫が地元に住居していたら、入園させたい	日々の生活の中で保育者が異年齢での交流を意識して子どもに関わり、思いやりや憧れの気持ちや育つように関わっていくとともに、見通しをもって計画を立て、実施していく
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	○個々の生活リズムを大切に、安心して生活できるように配慮し、早番、遅番保育の改善に取り組む	個々の生活リズムや体調に配慮しながら、必要に応じて活動を変更するなど無理なく過ごせるようにしている。また連絡事項伝達ファイルの書式変更をし、保護者との連絡事項を共有し、継続的に子どもの様子を把握できるようにしていった。遅番、早番、土曜保育の人数や支援児対応が増えているので、玩具の見直しや必要に応じて個別対応を行うなど安心して過ごせるようにしていく。	A	A		早番遅番で過ごす部屋の環境を定期的に見直し、改善することで、乳児・幼児・支援児等一人ひとりが安心して過ごせるようにする
	(3)環境を通して行う教育及び保育	○散歩マップを作成し活用しながら、地域へ散歩に出掛ける。また、地域の自然を保育に活かすことができるよう取り組む	今年度作成した散歩マップを掲示し、写真やイラストを貼ったことで、子どもたちが経験したことや行きたい目的地を話すなど、身近なものとなった。職員間で地域の自然物や散歩先の情報を共有することで、保育の中に自然物を取り入れて楽しむことができた。	A	A		計画的に散歩に出かけるようにしていくとともに、散歩マップの追加作成や活用をし、地域の自然に触れる機会を増やしていく
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	○様々な訓練を通して、避難場所・経路や役割分担などを確認する。また、園内外の危険箇所を職員間で共通理解し、安全意識を高める	様々な想定避難訓練を繰り返し、その都度職員会議で課題を出し、解決に向けて対応を見直している。また、消防署や交番と合同訓練を実施し、不明点の指導を受けるようにした。子どもたちはライフジャケットのスムーズな着用の練習や地域の避難タワーに登る訓練を取り入れたことで安全意識が高まってきた。園内外で起きたヒヤリハット事例を毎日の会議で報告し改善に努め、会議に出ていない職員には回覧し共有するようにした。	B	A	・引き渡し訓練や毎日の訓練を行ってこれているのは知っているが、実際どうやって訓練しているのかを参加会などで、保護者が体験するのもよいかもしいかな ・地震対策は毎年確率が上がっている ・少しでも前に進めたい。	様々な状況や時間帯を想定し訓練を実施していく。地域の交番、警察署など様々な機関と連携をとり、安全意識を高めていく。また園外の危険箇所が共有できるマップを作成していく
		(1)健康教育の充実	○季節の野菜を育てる栽培活動や、見る触る等の五感を刺激する食育集会を実施し、その内容や様子を保護者にも発信し、食への関心につなげていく	夏野菜冬野菜の栽培を行い、野菜の生長を感じ収穫を楽しみにした。また給食室とも連携し、クッキングや調理してもらったものを味わうことで、食への意識が高まってきている。毎月の食育の会には栄養士や調理員が参加し、食事が健康へと結びつく事を子どもたちに話している。保護者には食育だよりやボードで伝えている。	B	A	・訓練のやり方を毎回改善しているのがよいと思う。学校では避難場所に指定されているので、避難後の対応を検討課題としている ・参加会で夏野菜(なす)と一緒に調理して食べた時、子どもたちのなす嫌いが好きに変わっていき瞬間を見る子ができ、自分達で育てた物をみんなで食べる経験の有難さを感じた ・子どもたちの行う栽培と調理員さんたちとの連携が素晴らしい
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	○支援者会議で課題を共有したり、支援児の会(しらすっこ)を行うことで、保育の充実を図る。また、職員会議にて全職員に発信し、共通理解をしていく	毎月のケース会議や支援者会議にて支援児の情報を全職員で共通理解することができた。今年度始めた支援児の会「しらすっこ」は支援児の自信につながる活動となったため、来年度は子どもたちの様子を見ながら回数を増やしたり内容を考えたりしていく。	B	A		しらすっこの回数を増やし、支援児の様々な経験を自信につなげていくとともに、支援担当以外も参加し、支援方法や内容を共有できるようにしていく
		(1)組織体制の充実	○分掌は責任を持ち、取り組むともに、全職員が共通理解をし、協力しながら教育・保育を進める	職員数が少なく担当する分掌も多いが、全体的な計画をもとに各職員が責任を持って進めている。前月に企画案を職員会議で共有し全職員が把握できるよう連携、協力しながら準備、実施することができた。また、分掌毎に出た成果、課題は次年度に繋がられるよう、職員会議で共有していく。	B	A	
6 研修	(1)研修体制の充実	○研修テーマや手立てを意識し、園内研修を行う中で、公開保育や遊び地図をもとに職員間で共有しながら遊び環境を改善し、日々の保育に活かしていく	毎月の園内研修では研修テーマをもとに遊び地図を用いて各クラスの遊び環境や担任の悩みを共有し、アドバイスをすることで、翌日からの保育に活かしていった。公開保育においては研修部で話し合い視点を決め、保育者の関わりや環境について、KJ法を用いて成果と課題を明確にした。様々な角度から意見を出し話し合うことで、園全体の遊び環境の改善につなげていった。会議に出られない職員にも伝達し、職員の共通理解を図った。	A	A	・しらすっこの取り組みは、とても大切な取り組みだと思う ・子どもの自主性を尊重し、自由を大切に教育方針に感銘を受けた ・幅広い年代のたくさんの先生がみてる園だと思える	遊び地図にて、エピソードを10の姿に結び付け、子どもたちの育ちの姿や遊びの展開を考えていく。また全職員が風通し良く発言できる場を作るとともに、研修に出られない職員への報告や研修だより発行し共有していく
		(1)教育・保育環境の充実	○子ども自ら選べる環境を用意し、子どもたちの様々な遊びにつながるよう、素材・教材研究をしていく ○幼児期の終わりまでに育ててほしい10の姿をもとにねらいを持ち、日々子どもたちの興味に合わせて遊びを広げていく	幼児会議や乳児会議で、子どもたちの主体的な遊びにつながるよう、今一度環境を見直し、遊びに必要なものや可動遊具(コンテナ・パネル・お風呂マット等)選べる環境を増やしていった。そのことで子どもたちが広い園庭の中で自由に拠点を作り、遊びを変化させていながら、楽しむ姿が見られている。園内研修では「幼児期の終わりまでに育ててほしい10の姿」と照らし合わせながら振り返り、職員が子どもたちの育てている力を意識するようになった。	A	A	
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	○写真を使ったボードや連絡ノート、おたよりなどで日々の様子や遊びの経過、行事の取り組みを保護者に丁寧に伝えていく	毎日の子どもたちの様子や遊びの経過を伝えるドキュメンテーションやクラス便り、園だよりは、写真などをカラーで配信できるようになり、分かりやすく伝えられるようになった。配信を見ていない保護者に対しては、送迎時個別に声をかけている。また、個々への声掛け、年2回の参加会や面談を計画的に取り入れるなど、一人ひとりに合わせた支援を心掛けていった。	A	A	・ボードのおたよりも大変ありがたかったが、「コドモン」の移行も問題なく、充実した内容で有難い。スケジュールの入力など、一目でみてわかりやすい。クラスだよりも集約してもよいのではないかなと思う ・「コドモン」は働き方改革と保護者との繋がりの面でいい取り組みである ・5歳児交流と小学校との交流はとても良い経験になった。以前の交流で出会った友達と再会できる喜びや小学校に行くのが楽しみになる体験ができたことで、親も子どもも安心できた。ぜひ続けてほしい ・地域に出かけることを通して地域から支えていただける園になっていると思う	コドモンの機能を使って保護者にわかりやすく配信していく。新しい機能や課題も共通理解し、職員が同じ方向で伝えられるようにしていく。また配信が見れない家庭への丁寧な支援も行っていく
		(1)近隣の園との連携の推進	○近隣の園や小学校に公開保育を実施し、また小学校の授業参観や交流をしていく中で、自園の教育保育の充実につなげていく	なるべく多くの職員が近隣園の公開保育に参加したことで、他園の保育からの学びを自園の保育に活かすことが出来ている。小学校の公開授業に行ったり、自園の公開保育に参加してもらうことで、園での様子を見て頂き、保育のねらいや育くみしたい力を共有することができた。今年度は長田地区の5歳児交流を通して、他園の友達と関わり、就学に向けての自信につながっていった。	A	A	
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	○地域との連携を大切に、地域の行事に積極的に参加することで、つながりが深まるようにする	年間を通して地域の行事に積極的に参加することができた。また、勤労感謝訪問に出掛けたり、磯クラブしらすクラブでは高齢者との交流を行ったり、おしゃべりサロンなど未就園児親子の子育て支援なども計画的に行ったりと、地域との繋がりを大切にしている。園の行事に来賓の方を招待することで園の事を理解してもらい、また、子どもたちにとっては温かい拍手を頂くことが自信につながっている。	A	A		地域の方々と交流する機会を大切に継続し丁寧な関わりをすることで、子どもたちが地域へ親しみを持っていくようにしていく。幼児だけでなく乳児組も交流できるような計画をしていく